



共同研究プロジェクト

近代日本における国民の道徳と社会の教育

道徳科学研究所 客員研究員  
共同研究代表者

久禮 巨雄

洪沢栄一（一八四〇～一九三二）の人生を描く大河ドラマ『青天を衝け』は明治時代に入り、ようやく洪沢が歴史の表舞台に登場してくる展開となってきました。ところで、パリから帰ってきた洪沢を実家で出迎えた「うた」と呼ばれる少女。彼女こそが洪沢の長女で、のち穂積陳重の妻となり、陳重没後、聖徳太子像を形見として廣池千九郎博士に託した穂積歌子その人であることに気づかれた人は多いと思います。

歴史ドラマの魅力は、歴史上の人物の一生を描くことで、その成長を体験し、学べることにあります。今年の大河ドラマで洪沢栄一が、さまざまな人々との出会いの中で日本の近代資本主義の精神と制度を構築していった様子が描かれているように、廣池千九郎博士とそれを取り巻く人々が日本近代の大きな社会の変化の中で、その時

代に即した新しい社会の道徳の精神と教育の制度をどのようにつくり上げていったかを明らかにしようとしたのが、令和三（二〇二二）年度からの本プロジェクト「近代日本における国民の道徳と社会の教育」にほかなりません。

「廣池千九郎思想マップ」の完成をめざす

本プロジェクトは平成三十（二〇一八）年度より三年間、冬月律（主任研究員）を代表として取り組んだ「近代日本における国民の道徳と民衆の教育」の成果を継承したものです。前プロジェクトでは、廣池博士をはじめとした新しい社会の道徳を模索した先人たちの歩みをたどり、そこから現代における新しい道徳の構築のヒントを得ることをめざして研究発表を行うとともに、その交流の歴史をビジュアルで分かりやすく



「廣池千九郎思想マップ」(一部)

まとめた「廣池千九郎思想マップ」(明治・大正期編)の成果を挙げる

ことができました。

今後は、道徳研究や教育に関わった人たちのみでなく、彼らが関わった組織についても考察を及ぼし、学校教育・社会教育については江島顕一（主任研究員・麗澤大学准教授）、神社制度・宗教行政については冬月律、法制度と家族制度については久禮巨雄（研究代表・客員研究員）が研究を行い、更に「廣池千九郎思想マップ 昭和期編」の完成をめざす予定です。